

[省令第8条の4の5(1,000トン以上排出事業者用)]

様式第2号の8(第8条の4の5関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和7年6月5日

(宛先) 長野市長 萩原 健司 様

提出者

住 所 長野市大字鶴賀緑町1631-3

氏 名 株式会社鹿熊組

代表取締役社長 鹿熊 聰

(法人にあっては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 026-235-3311

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社鹿熊組
事業場の所在地	長野市大字鶴賀緑町1631-3
計画期間	令和7年4月1日～令和8年3月31日

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	建設業
②事業の規模	前期66期 完成工事高57.2億円
③従業員数	86名
④産業廃棄物の一連の処理工程	工事受注 ↓ 施工計画立案 ・発生する廃棄物の種類、数量、処分方法の確認・検討 ↓ 工事施工 ・施工計画に従い発生した廃棄物を処理する

## 産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

## (管理体制図)

当社の建設廃棄物の処理を統括する責任者は工務部長とする。個々の作業所及び部門（機材センター等）より発生する建設廃棄物の処理の責任者は下記の通りとする。  
作業所（現場代理人）、機材センター（機材管理課の責任者）、本社（各部部長）

## 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度（令和6年度）実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	がれき類(コンクリがら、廃アス)
	排出量	30.35t	4.32t	562.14t	176.11t	20.30t	758.57t
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物 (安定型、管理)					
	排出量	8.50t					
	(これまでに実施した取組)						
請負以上に不要な建設廃棄物を発生させない。製品の梱包材、廃材を極力減らす。再生利用できる材料を使用する。混合廃棄物が極力発生しないよう分別を行う。分別について協力会社にも周知を徹底する。							
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器くず	がれき類(コンクリがら、廃アス)
	排出量	28.83t	4.10t	534.03t	167.30t	19.29t	720.64t
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物 (安定型、管理)	0	0	0	0	0
	排出量	8.08t					
(今後実施する予定の取組)							
請負以上に不要な建設廃棄物を発生させない。製品の梱包材、廃材を極力減らす。再生利用できる材料を使用する。混合廃棄物が極力発生しないよう分別を行う。分別について協力会社にも周知を徹底する。目標数量については受注した工事によって変動があるのであくまで目安である。							

## 産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 全ての廃棄物についてできるだけ混合しないように分別を行う。 分別について協力業者に周知徹底する。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 全ての廃棄物についてできるだけ混合しないように分別を行う。 分別について協力業者に周知徹底する。

## 自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

【前年度(令和 年度)実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器	がれき類(コンクリート・陶磁器) リガラ、廃アス
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理)	0	0	0	0	0
	自ら再生利用を行った 産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)						
	【目標】						
②計画	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器	がれき類(コンクリート・陶磁器) リガラ、廃アス
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理)	0	0	0	0	0
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)						

## 自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

【前年度(令和 年度)実績】							
①現状	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器	がれき類(コンクリート・陶磁器) リガラ、廃アス
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理)	0	0	0	0	0
	自ら熱回収を行った 産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量した 産業廃棄物の量						
	(これまでに実施した取組)						
②計画	【目標】						
	産業廃棄物の種類	廃プラスチック (廃タイヤ、発泡)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器	がれき類(コンクリート・陶磁器) リガラ、廃アス
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量						
	産業廃棄物の種類	建設混合廃棄物(安定型、管理)	0	0	0	0	0
	自ら熱回収を行う 産業廃棄物の量						
	自ら中間処理により減量する 産業廃棄物の量						
	(今後実施する予定の取組)						

## 自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

## 産業廃棄物の処理の委託に関する事項



(第6面)

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
  - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
  - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
  - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が12以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。  
また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

## 産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

処理事項		産業廃棄物の種類（実績値・計画値）												合計	
		廃プラスチック(廃タイヤ、 登録フチ)	紙くず	木くず	金属くず	ガラス・コンクリート・陶磁器／	がれき類(コンクリ がら、廃アフタ)	建設混合廃棄物(安 定型、管 理型)	0	0	0	0	0		
排出抑制に関する事項		前年度排出量(実績)	30.35t	4.32t	562.14t	176.11t	20.30t	758.57t	8.50t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,560.28t	
		本年度排出量(計画)	28.83t	4.10t	534.03t	167.30t	19.29t	720.64t	8.08t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,482.27t	
自ら行う(行った) 再生利用に関する事項		前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
自ら行う (行った) 中間処理 に関する 事項	自ら行う (行った) 熱回収の量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
	自ら中間処理 により減量 する(した)量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
自ら行う(行った)埋立 処分又は海洋投入処分 に関する事項		前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
処理の委託 に関する事項	全処理委託量	前年度実績	30.35t	4.32t	562.14t	176.11t	20.30t	758.57t	8.50t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,560.28t	
		本年度計画(目標)	28.83t	4.10t	534.03t	167.30t	19.29t	720.64t	8.08t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,482.27t	
	優良認定処理業者 への処理委託量	前年度実績	30.00t	4.32t	42.67t	176.11t	13.40t	16.43t	8.50t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	291.42t	
		本年度計画(目標)	28.50t	4.10t	40.54t	167.30t	12.73t	15.61t	8.08t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	276.85t	
	再生利用業者 への処理委託量	前年度実績	30.35t	4.32t	562.14t	176.11t	20.30t	758.57t	8.50t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,560.28t	
		本年度計画(目標)	28.83t	4.10t	534.03t	167.30t	19.29t	720.64t	8.08t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	1,482.27t	
	認定熱回収業者 への処理委託量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	前年度実績	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	
		本年度計画(目標)	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	0.00t	

## 【記載方法】

- 各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の上段に前年度の実績（現状）を、下段に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- 「自ら行う再生利用に関する事項」の欄は、自ら直接再生利用した量と中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- 「自ら行う埋立処分又は海洋投入処分に関する事項」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。
- 「処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量及びそれぞれの内訳を記載してください。